



地域ぐるみで守り育む 子どもたちの交通安全

高須交通少年団

安 全運転をお願いします！
と呼びかけるのは、えんじ色のベレー帽と黄色のスカーフがトレードマークの「高須交通少年団」の子どもたち。

交通少年団とは、交通の決まりとマナーを身につけ「やさしさ」と思いやりのある心を持った

人間づくりを目指す少年団です。

高須交通少年団は、昭和55年の創設から今年度で37年を迎えました。現在は高須小学校の全校生徒10人が在籍し、主にロードミラー磨きとごみ拾いなど、交通安全の啓発に関する様々な活動を行っています。平成28年



「地域の方と一緒に活動できるのがよい経験になる」と語る高須交通少年団育成会長の福里健吾さん

度には、「鹿児島県青少年育成県民会議表彰」を受賞しました。

9月には「秋の全国交通安全運動」の一環として、通行するドライブバーに対し、交通安全を願って自ら書いた手紙などを手渡したり、交通安全の看板を持って立哨指導をしたりしました。

このような活動の際には、育成会や教員だけでなく、交通安全協会や警察署、地元のボランティアも参加して、子どもたちをサポートしています。

高須小学校の担当教諭の田中真一さんは、子どもたちの成長を感じています。「高須の子は1年生でも交通安全の意識が高い。地域の方が一緒に子どもたちの活動を見守ってくれるおかげで、地域ぐるみで安全を守るという機運ができています。今後もし人数ならではの取組を続けていきたい」



国道269号線で行われた交通安全キャンペーン。子どもたちは小雨の中、手書きした手紙300枚と飲み物をドライバーに配布した。



学年や世代を超えて仲良しになれる、高須交通少年団の子どもたち。それを温かい眼差しで見守るのは、地域の大人たち。

編集後記

平 成28年の総務省の家計調査によると、魚介類消費量1位の青森県(60,394g)に対し、鹿児島県は下から3番目の45位(31,233g)。青森県の半分しか魚介類を消費していないとは驚きですね。今夜は魚を食卓に！(前田)

ス ポーツの記録を追いかけることが、個人的に好きだったりします。スポーツ吹矢の日本記録を樹立した山下さんは「飛ばすだけでなく45m飛ばせる」と話します。もっと、「人類の限界」を見たい気がします。(原田)

9 80人。これは鹿屋市消防団に在籍する消防団員数です。今回、女性消防隊の福岡さんの話を聞き、地域のために日々活動する消防団の「使命感」を感じました。「ローズ隊」の今後の活躍にも目が離せません！(田嶋)

お便り&メッセージ

×キリトリ線

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報、抽選・賞品引換券の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはございません。